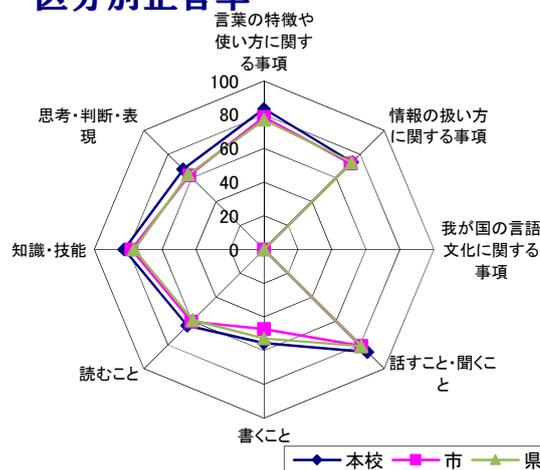


# 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.5	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	73.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	86.1	81.0	81.1
	書くこと	55.5	47.2	52.8
	読むこと	63.8	60.5	59.3
観点	知識・技能	82.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	67.3	62.3	63.1



## ★指導の工夫と改善

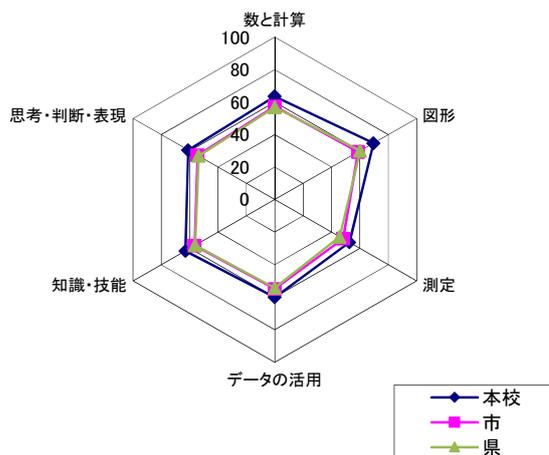
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は83.5%であり、県平均より6.6ポイント、市平均より4.9ポイント上回っている。 ○漢字を正しく読んだり書いたりすることや、ローマ字で表記されたものを正しく読むこと、また主語と述語の関係を捉えることができている。	・国語に限らず、様々な教科や学習活動の中で、漢字やローマ字を書いたり読んだりする機会を増やす。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は73.3%であり、県平均より0.2ポイント、市平均より1.1ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができている。	・国語辞典をすぐ手に取って活用できる環境を整えているので、国語辞典を活用する機会をさらに増やし、様々な場面で言語に興味をもてるような活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は86.1%であり、県平均より5ポイント、市平均より5.1ポイント上回っている。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることができている。 ●司会者の話し方の工夫を捉えることに課題が見られる。	・グループや学級全体での話し合い活動の際に司会者などの役割を立てる機会を増やす。また、司会者の話し方を全体で確認する場面を設け、よりよい話し合い活動になるような工夫ができるようにする。
書くこと	平均正答率は55.5%であり、県平均より2.7ポイント、市平均より8.3ポイント上回っている。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができている。	・さらに力を高めるために、様々な教科において、文の構成や言葉の選択を工夫し、読み手に分かりやすく伝える文を書く機会を増やす。
読むこと	平均正答率は63.8%であり、県平均より4.5ポイント、市平均より3.3ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 ●登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることに課題が見られる。	・登場人物の気持ちを捉えるために、授業の中で場面の様子が分かる叙述に注目させ、情景を想像するような活動を取り入れる。

# 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.5	57.4	56.9
	図形	69.5	58.7	60.1
	測定	52.6	48.1	45.7
	データの活用	60.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	63.0	56.6	56.2
	思考・判断・表現	61.1	54.5	53.8



## ★指導の工夫と改善

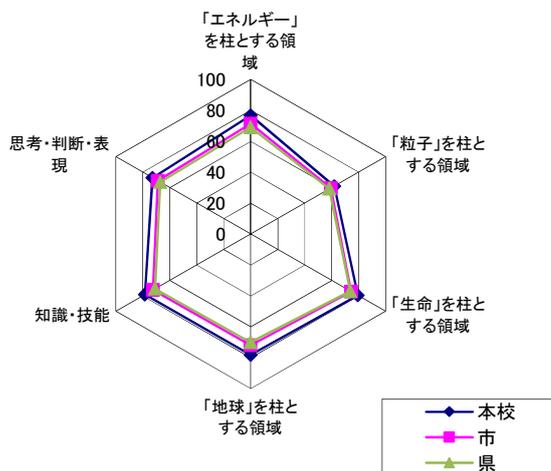
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率が63.5%であり、県平均より6.6ポイント、市平均より6.1ポイント上回っている。</p> <p>○小数のしくみや表し方を答える設問では、平均正答率が94.2%で県平均を4.2ポイント、市平均を3.8ポイント上回っている。小数のしくみや表し方がよく理解されている。</p> <p>●余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する設問では、県平均を5.4ポイント、市平均を5.6ポイント上回っているものの、平均正答率が31.4%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の反復練習を継続して行うとともに、式の意味を読み取り、仕組みを正しく捉えさせることを意識し、確実に身に付けられるようにしていく。</li> <li>・わる数と余りの大きさに着目し、常にわり算の意味に基づいて考えることにより、あまりの大きさは分ける操作の回数が最大になったときの残りの数であることを理解することができるよう指導を継続していく。</li> <li>・自分の考えを深める十分な時間の確保、友達の考えに触れる場を設け、思考力を育んでいく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率が69.5%であり、県平均より9.4ポイント、市平均より10.8ポイント上回っている。</p> <p>○球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ設問では、平均正答率が84.9%で県平均より10.9ポイント、市平均より15.2ポイント上回っている。球の断面図についてしっかり理解ができている。</p> <p>●二等辺三角形になる点を選ぶ設問では県平均を13.2ポイント、市平均を12.3ポイント上回っているものの、平均正答率が45.4%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分度器やコンパス、三角定規などを用いて作図する機会を意図的に増やし、正しく作図をしたり、図形の性質を理解することができるよう指導を継続していく。</li> <li>・一辺を描いた後に、残りの1つの頂点を決める際の条件を理解することができるよう指導を継続していく。</li> <li>・デジタル教科書などを用いて指導し、図形を構成する要素や特徴が視覚的に捉えるよう支援の充実を図る。</li> </ul>
測定	<p>平均正答率が52.6%であり、県平均より6.9ポイント、市平均より4.5ポイント高い。</p> <p>○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらが短いかを説明する設問では、平均正答率が60.5%で県平均より8.8ポイント、市平均より7.2ポイント上回っている。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問では、県平均より7.7ポイント、市平均より2.1ポイント上回っているものの、平均正答率が37.2%と低かった。はかりの目盛りからかごの重さを引くことで、実際の重さを計算で求める考え方の理解に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重さや距離の単位の関係を理解できるように、日常生活と結びつけた授業や重さの単位換算を練習したりする活動を意識的に設ける。</li> <li>・はかりや数直線を使う機会を増やし、使い方や読み取りの定着を図る。</li> <li>・重さの加法性について、重さの関係を図に表してその関係性について考えさせることで、全体の物の重さと入れ物や測定する物の関係性を理解することができるよう指導を継続していく。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率が60.1%であり、県平均より5.8ポイント、市平均より5.2ポイント上回っている。</p> <p>○二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える設問では、平均正答率が69.8%で県平均を10.1ポイント、市平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ設問では、県平均を3.9ポイント、市平均を3.1ポイント上回っているものの、平均正答率が46.5%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との関連を図り、表やグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、表やグラフのどの部分から考えたのかを説明する学習活動を意図的に行う。</li> <li>・資料内の棒グラフの目盛りを正しく読み取ったり、棒グラフの特徴を説明したりする場面を意図的に設け、繰り返し復習できるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.7	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	79.4	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	78.2	72.0	70.1
観点	知識・技能	78.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	72.8	68.8	67.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率が76.7%であり、県平均より7.6ポイント、市平均より5.3ポイント上回っている。</p> <p>○実験結果から、風の強さとものを動かすはたらきの関係について解釈し、表現できるかどうかをみる設問では、平均正答率が81.4%であり、県平均を12ポイント、市平均を7ポイント上回っている。</p> <p>●3人以上で糸電話を使用し、1か所をつまんだ結果から、音が伝わった人を指摘できるかどうかをみる設問では、平均正答率が65.1%であり、県平均を1.5ポイント上回ったものの、市平均0.9ポイント下回っており、獲得済みの知識を他の場面で活用することに課題が見られた。</p>	<p>・実験結果を考察する場面で文章化する活動を意図的に行ったり、理科の言葉を使って表現するよう指導したりした結果、児童が実験の様子を自分の言葉で的確に表せるようになったと考えられる。今後も同様の指導を継続していく。</p> <p>・音の性質についての学習では、教科書に示された実験だけでなく応用的な実験を行い、学習で得られた知識を活用する場面を授業の中で設定する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率が61.9%であり、県平均より3.6ポイント、市平均より2.6ポイント上回っている。</p> <p>○体積を同じにした時のものの重さのちがいについて考え、表現できるかどうかをみる設問では、平均正答率が96.5%であり、県平均を8.1ポイント、市平均を7.8ポイント上回っている。</p> <p>●粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる設問では、平均正答率が20.9%であり、県、市平均ともに6.1ポイント下回っており、実験結果を具体的に予想する力(=仮説を立てる力)に課題が見られた。</p>	<p>・エネルギー領域と同様に、実験結果を考察する場面で文章化する活動を意図的に行ったり、理科の言葉を使って表現するよう指導したりした結果、児童が実験の様子を自分の言葉で的確に表せるようになったと考えられる。今後も同様の指導を継続していく。</p> <p>・児童が実験結果を具体的に予想し、見通しを持てるよう指導を工夫することで、実験の意図や目的を明確にし、子供たちの深い理解を促せるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率が79.4%であり、県平均より5.6ポイント、市平均より4.9ポイント上回っている。</p> <p>○クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し、クモが昆虫であるか判断できるかどうかをみる設問では、平均正答率が79.1%であり、県平均を17.4ポイント、市平均15.1ポイントと大幅に上回っている。</p> <p>●複数の植物の体のつくりを比較し、共通点を記述できるかどうかをみる設問では、平均正答率が67.4%であり、県平均を14.6ポイント、市平均13.7ポイントを大幅に下回っており、共通性・多様性の視点で観察したり考察したりする力に課題が見られた。</p>	<p>・多様な昆虫や虫を観察する機会を設け、昆虫の体のつくりについて体験的に学ばせてきたことが、この結果につながっていると考えられる。今後も同様の指導を継続していく。</p> <p>・植物の体のつくりについて、多様な植物を見比べたり、共通性を意識させるような問いかけをしたりすることで、子供自身が気づきを得る学習となるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率が78.2%であり、県平均より8.1ポイント、市平均より6.2ポイント上回っている。</p> <p>○温度計の使い方が身に付いているかどうかをみる設問では、平均正答率が93.0%であり、県平均を10.3ポイント、市平均を9.2ポイント上回っている。</p> <p>●日なたと日陰について見いだした問題に正対した記録を選ぶかどうかをみる設問では、県平均を4.3ポイント、市平均を1.4ポイント上回ったものの、平均正答率が60.5%と低く、必要とされているデータは何なのかを思考し、選択する情報収集能力に課題が見られた。</p>	<p>・実験方法について、子供たち自身に注意点や工夫の理由を考えさせた上で実験を行った結果、その方法がしっかりと定着したと考えられる。今後も同様の指導を継続していく。</p> <p>・児童が自分たちの課題を解決するために、どのような実験が必要かを考える場面を設定することで、実験や観察の意図や目的を明確にし、見通しをもって取り組めるようにする。</p>

## 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」という質問について  
肯定的回答率は94.4%と、県平均を5ポイント、市平均を6.7ポイント大きく上回っている。「岡本西小授業スタンダード」を活用し、ノートの取り方やまとめの観点などを毎時間指導してきたことが、今回の結果に繋がったと考えられる。

○「授業の内容はよく分かりますか。」という質問について  
ほとんどの教科で県や市の肯定的回答率を上回っており、特に算数においては、県平均を5.9ポイント、市平均を5.4ポイント上回っている。社会においては、県平均を5.7ポイント、市平均を6.4ポイント上回っている。各授業での内容のまとめをしっかり押さえた上で問題を解く時間を十分に確保したり、児童の興味や関心を引き出す教材や資料などを提示したりすることで、理解が深まったと考えられる。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」という質問について  
肯定的回答率は79.8%と、県平均を15.2ポイント、市平均を15.9ポイント大きく上回っている。3年生のときに国語辞典を身近に置いて、分からない言葉を調べるといった習慣が身に付いたと考えられる。

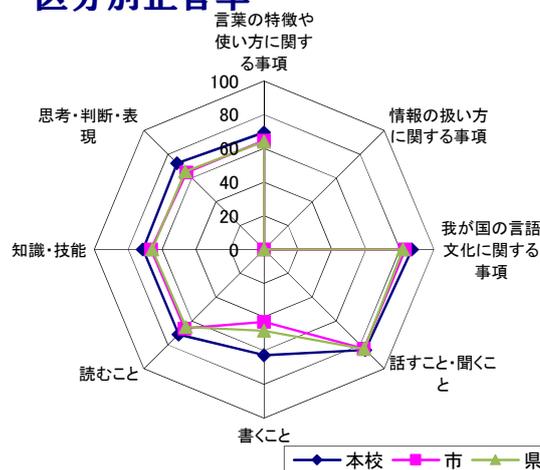
●「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」という質問について  
肯定的回答率は56.2%と、県平均を6.6ポイント、市平均を5.8ポイント下回っている。家庭学習たいやき月間での啓発と日頃の自主学習がんばりカードを活用した支援を今後も継続し、宿題以外の自主学習に進んで取り組めるようにしていく。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」という質問について  
肯定的回答率は39.3%で、県平均より18.1ポイント、市平均より16.5ポイント大きく下回っている。問題文の重要な部分を皆で考え共有してから解いたり、児童のつまずきを教師が見取って個別に支援を行ったりすることで、課題に最後まで取り組もうとする意欲を高めるようにする。

# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.5	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.1	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.4	83.3	83.4
	書くこと	62.7	42.8	48.2
	読むこと	71.2	66.1	65.1
観点	知識・技能	71.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	72.4	64.6	65.5



## ★指導の工夫と改善

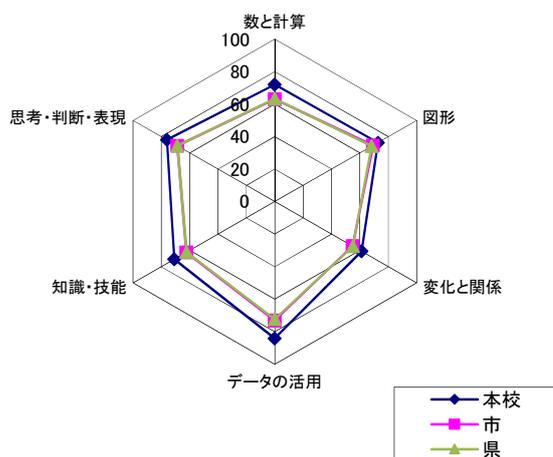
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は69.5%であり、県平均より5.4ポイント、市平均より4.8ポイント上回っている。 ○漢字を正しく書くこと・熟語の意味を捉えることに関しては、特に理解できている。	・朝の学習や家庭学習などを活用して、繰り返し漢字練習をする機会を多く設定する。また、漢字を練習する際に、その漢字を使った熟語や短文作りなども行い、読み方や使い方を覚えられるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は87.1%であり、県平均より5.2ポイント、市平均より4ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができている。	・今後も授業や家庭学習等において、ことわざや慣用句、四字熟語などについて、例文を作る活動を取り入れるなどして、ことわざ等に触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は84.4%であり、県平均より1ポイント、市平均より1.1ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることにおいて課題が見られた。	・国語の授業を中心に話し合いの機会を意図的に設定するとともに、意見の共通点や相違点、自分の考えの伝えられるように相手にうまく伝わるような表現の工夫について指導していく。
書くこと	平均正答率は62.7%であり、県平均より14.5ポイント、市平均より19.9ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書いたり、段落の役割について理解し、2段落構成で事実や自分の考えを書いたりすることができている。	・指定された条件に合わせて、段落を適切に使いながら事実や自分の考えが読み手に伝わるような工夫についてさらに指導を継続していく。
読むこと	平均正答率は71.2%であり、県平均より6.1ポイント、市平均より5.1ポイント上回っている。 ○登場人物の性格について、具体的に想像することができている。 ●登場人物の気持ちの変化について、必要な字数に合わせてまとめることに課題が見られた。	・読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、登場人物の心情を叙述を元に読み取ったり、自分と対比して読んだりしながら、読み深める活動を取り入れていく。

# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.0	63.0	63.3
	図形	72.7	69.2	68.3
	変化と関係	61.2	54.8	55.0
	データの活用	84.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	70.8	62.3	62.1
	思考・判断・表現	76.1	68.7	68.7



## ★指導の工夫と改善

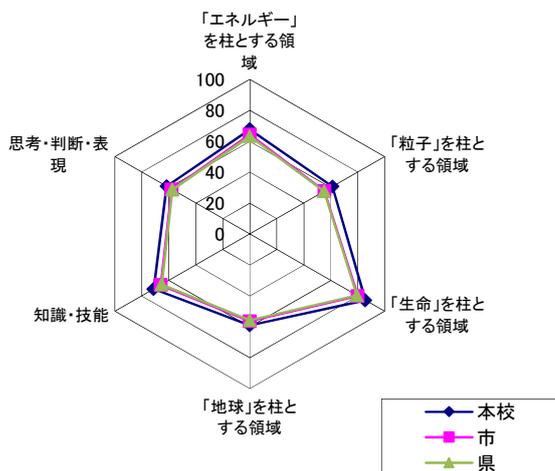
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率が72.0%であり、県平均より8.7ポイント、市平均より9ポイント上回っている。</p> <p>○式の意味を正しくとらえることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が91.8%で県平均を6.7ポイント、市平均を7.8ポイント上回っている。</p> <p>●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表すことができるかどうかをみる設問では、県平均を4.1ポイント、市平均を4.3ポイント上回っているものの、平均正答率が52.9%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線の目盛りを数えていくつ分かを捉えて値を読み取る活動をしていく。</li> <li>仮分数と帯分数の意味を捉えられるように繰り返し指導していく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率が72.7%であり、県平均より4.4ポイント、市平均より3.5ポイント上回っている。</p> <p>○物の位置の表し方を理解し、もとにする位置を考えることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が78.8%で県平均より16.2ポイント、市平均より13.4ポイント上回っている。</p> <p>●三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせてできた角の大きさを求めることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が50.6%で県平均を3.3ポイント、市平均を3.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角定規の角の大きさを捉えられるように、具体物を用いて視覚的に理解できるようにしたり、既習の図形の特徴と関連させたりしながら繰り返し指導していく。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均正答率が61.2%であり、県平均より6.2ポイント、市平均より6.4ポイント高い。</p> <p>○表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が84.7%で県平均より10.3ポイント、市平均より11.1ポイント上回っている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる設問では、平均正答率が49.4%で市平均を0.4ポイント上回っているが、県平均より1.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法則性を見つけて立式をすることに課題が見られるため、数の変化を表から読み取る活動を充実させていく。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率が84.1%であり、県平均より11.8ポイント、市平均より11ポイント上回っている。</p> <p>○2次元の表の意味を理解しているかどうかをみる設問では、平均正答率が92.9%で県平均を16.5ポイント、市平均を15.5ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科との関連を図り、表やグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、表やグラフのどの部分から考えたのかを説明する学習活動を意図的に行う。</li> <li>継続して資料内のグラフの目盛りを正しく読み取ったり、グラフの特徴を説明したりする場面を意図的に設け、繰り返し復習できるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	61.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	85.7	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	59.1	56.4	55.8
観点	知識・技能	71.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	61.7	57.9	57.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は67.7%と県平均より4.5ポイント、市平均より3.4ポイント上回っている。</p> <p>○「電流の動き」の直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて問う設問では、平均正答率が71.8%であり、県平均より14.3ポイント、市平均より11.7ポイント上回っており、回路と電流の関係をよく理解している。</p> <p>●電流が流れない回路の原因の箇所を問う設問では、平均正答率が63.5%であり、県平均より1.2ポイント、市平均より0.7ポイント下回っており、乾電池の極に対する理解に課題が見られた。</p>	<p>・理科の重要語句や実験結果についてはよく理解しており、授業や実験に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も引き続き、目的意識をもって実験に取り組ませ、学習内容をしっかりと身に付けさせていく。</p> <p>・実験を行う際に時間を十分に取らず、つなぎ方や乾電池の極の向きなど複数の条件を丁寧に確認しながら取り組ませるようにする。また、うまく結果が出ない場合にも、その原因について考えを出し合い、自分たちで解決しながら理解を深められるように指導を工夫していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は61.3%と県平均より6.2ポイント、市平均より5.9ポイント上回っている。</p> <p>○金属板の温まる順序を問う設問では、平均正答率が91.8%であり、県平均より11.9ポイント、市平均より11.6ポイント上回っており、金属のあたたまり方の特徴をよく理解している。</p> <p>●空気でっぽうの玉がとぶしくみを問う設問では、平均正答率が30.6%であり、県平均より2.2ポイント、市平均より3.9ポイント下回っており、空気でっぽうのしくみの理解に課題が見られた。</p>	<p>・実験結果についてはよく理解しており、授業や観察に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も、目的意識をもって観察に取り組ませ、学習内容をしっかりと身に付けさせていく。</p> <p>・実験で目にした現象と対象となったものの性質の関係が十分に結び付いていない様子が見られた。実験結果がなぜそうなったのか、実験から分かったことを理科の言葉を使って言語化し、説明する機会を増やしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は85.7%と県平均より6.4ポイント、市平均より5.6ポイント上回っている。</p> <p>○骨と骨のつなぎ目の名称を問う設問では、平均正答率が94.1%であり、県平均より5.9ポイント、市平均より6.8ポイント上回っており、関節の名称をよく理解している。</p> <p>●骨のはたらきを問う設問では、平均正答率が58.8%であり、県平均より16.8ポイント、市平均より14.3ポイント上回っているものの、骨の役割の理解に課題が見られた。</p>	<p>・重要語句についてはよく理解しており、授業や実験に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も用語カードなどを使って繰り返し意識させたり、他の単元や教科の中で関連性をもたせたりしながら、確実に身に付けさせる。</p> <p>・重要語句とそのしくみや役割を図や文章でノートにまとめてから、総括的に関連付けて理解を深める。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は59.1%と県平均より3.3ポイント、市平均より2.7ポイント上回っている。</p> <p>○空気と水を温めた時の体積変化の違いを実験結果を基に表現する設問では、平均正答率が85.9%であり、県平均より16.9ポイント、市平均より16.6ポイント上回っている。</p> <p>●実験結果から水たまりができにくい地面を選び、その理由を答える設問では、平均正答率が41.2%であり、県や市の平均と同程度であるものの、半数以上が正しく答えられておらず課題が見られた。</p>	<p>・観察や実験について関心が高いので、今後も、時間を十分に確保し、結果を文章で記述する活動丁寧に行うことで、理解を深められるようにしていきたい。</p> <p>・授業で学習した内容と日常の自然現象を結び付けることが十分でない様子が見られるので、学習が終了した後も機会を捉えて身の回りの現象を取り上げ、単元で学んだことや実験結果との関連を考えて言語化し、実生活と結びつけた実感を持った理解が得られるようにしていく。</p>

## 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」という質問について  
肯定的回答率は68.6%と、県平均を8.7ポイント、市平均を7.2ポイント上回っている。日頃から自主学習への取り組み方を指導したり、教室内や廊下掲示などに児童の自主学習ノートの取組を掲示したりしている成果が表れていると考える。引き続き、自分で学びたいことを見つけて学習しようとする姿勢を奨励していく。

○「1か月に何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」という質問について  
「11冊以上」または「5～10冊」と回答した児童は56.2%と、県平均を17.8ポイント、市平均を13.1ポイント上回っている。普段の授業での図書室の利用や朝の読書タイム、月1回のファミリー読書など、本を読む活動を積極的に取り入れてきたことで、読書習慣が自然と身に付き、読書に親しんでいる様子が見える。引き続き図書館司書と連携し、読書が生活の一部になるように指導を継続していく。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」という質問について  
肯定的回答率は93.7%で、県平均を15.4ポイント、市平均を15.2ポイント上回っている。普段の学習や生活の場面において、「岡本西小授業スタンダード」に基づいて、グループでの話し合い活動を積極的に取り入れた成果が表れていると考えられる。引き続き、少人数での話し合いを多く取り入れることで、自信をもって自分の考えや意見を発表する経験を積み重ねられるように支援していく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」という質問について  
「4時間以上」または「3時間以上、4時間より少ない」と回答した児童は38.3%と、県平均を5.8ポイント、市平均を6.8ポイント上回っており、長時間テレビやDVD、動画などを視聴している児童が多いことが分かる。視力低下や健康面への悪影響が懸念されるため、養護教諭と連携し、児童への健康指導とともに、懇談会で話題にするなど保護者への啓発を図っていく。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」という質問について  
肯定回答率は65.2%で、県平均より6.8ポイント、市平均より5.5ポイント下回っている。ニュース等で話題になった国名等について地図帳で調べる活動を普段の授業で積極的に取り入れる。また、インターネットを利用した調べ学習のやり方を授業で取り扱うなど、自分の力で調べる体験を多く取り入れていく。

## 宇都宮市立岡本西小学校 (第4・5学年共通)

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
豊かに表現する児童の育成	<p>児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。そのために今年度は「言葉」に着目し、言語活動をするための基盤となる力を育成するための指導の工夫の研究に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の工夫</li> <li>・発問の工夫</li> <li>・文章構成や言葉遣い等の文法の指導</li> <li>・語彙力の育成するための指導</li> <li>・読書活動の推進</li> </ul>	<p>○国語の調査内にある「考えを文章で表す設問」において、無回答率が10%前後であり、市・県平均と比較すると10ポイント以上低い値となっている。</p> <p>○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について 肯定的回答率が4年生では75.3%で県平均と同程度であった。5年生では86.5%で県平均を上回った。</p> <p>●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」について 肯定的回答率が4年生では64.0%、5年生では57.3%であり、昨年度と比べると若干増加している傾向が見られる。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>各教科及び質問紙の調査結果から、以下のような課題が見られた。</p> <p>①必要な情報やキーワードを見付けながら内容を読み取ること。                  ②他者の考えを理解したり工夫を捉えたりすること。                  ③既習内容の知識を新たな課題解決に活用すること。</p> <p>これらのことから、「情報を自分なりに意味づけ、他者と関わりながら、新たな状況で活用する力」に課題がある。</p>	<p>探究的な学びを軸とした、思考のサイクルの確立</p>	<p>①「問い中心」の授業設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが「知りたい！」「解決したい！」と思えるような、身近な問題や不思議な現象を提示し、「単元を貫く問い」を立てる。</li> <li>・「問い」を解決するために「何を知る必要があるか？」を子供たち自身に考えさせ、学習計画(調べることリスト)を作成させる。</li> </ul> <p>②「思考ツール」を活用した対話的な学びの構造化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や教科を問わず思考ツールを活用する文化を作る。これにより、考えを整理したり、比較したりする「型」を習得させる。</li> <li>・個々が思考ツールでまとめた考えを持ち寄り、比較・検討する。その際、「〇〇さんの図を見ると、こういう工夫があるね」「自分にはなかった視点だ」といった発見を促す。</li> </ul> <p>③「振り返り」の習慣化による学びの般化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で作成した思考ツールや振り返りをノートやICTに蓄積し、過去の学びを参照する習慣を身につける。</li> </ul>